

佳作

ARi-Ga To Go Za I Ma Su

静岡県 静岡県立韮山高等学校一年 古田 采音

「ありがとうございます」

この言葉で、嬉しい気持ちになったことは、誰しもあるのではないでしょうか。今回、この言葉は、私に大きな感動を運んでくれました。

今、日本に移住してくる外国の方が増加しています。その時、その子どもたちはどうなのでしょう。外国で生まれ育ってきた子どもたちは、日本語しか話さない学校にいきなり入ることはできません。学校に行く前に、ある程度日本語を話せるようにして、日本の学校のルールも学ばなくてはなりません。私は夏休みの一日で、多国籍児童が学ぶ学校へ行き、学習支援をするボランティアをさせていただきました。

午前中は、ある程度の日本語なら話せる子どもたちの教室へ行きました。教室に入ったときは休み時間で、一人の男の子がこちらを見て少し恥ずかしそうながらもこっと笑い、

「おはようございます。」

五十語もあるひらがなを勉強していくのです。すると、『い』の時に立ち上がって、

「これ、これ。」

と、教室の後ろにあったいすを指差しているのです。「ああ、『いす』を覚えたのかな」と思ったのですが、こちらにそのいすを持ってきてくれました。私が膝をついて教えていたのに気付いてくれたのです。私はうわぁ…と本当に嬉しくて、感動して、

「ありがとうございます。サユリちゃん、ありがとうございます。嬉しいよ。」

ありがとうございます！と、この思いが届くように、また、サユリちゃんにも嬉しくなってもらえるように、できるだけ簡単な言葉で、そして笑顔で伝えました。休み時間になると、教室中のみんなで遊んでいます。母国語の違う子ども同士でも、ここにこで、楽しそうに遊んでいます。それは、笑顔の会話の空間でした。

今回、子どもたちの優しくして一生懸命な姿が、とても印象に残りました。またそれは、「ありがとうございます」という言葉が飛び交う場所だからこそ培えたものだと思います。

もし私がいきなり言葉も通じない場所に行ったら、不安でたまらないし、何より寂しくてたまらないと思います。でも、もしこういうすてきな思いがあふれていて、笑顔でいっぱい空間があったら元気になるはず。みんなは必ず笑顔で挨拶をしてくれました。階段で道を

と挨拶をしてくれました。私も思わず笑顔になりました。その後、彼はすぐに机に向かい、黙々と何かを書いています。それを見た瞬間、私は胸を打たれました。

ARi Ga To Go Za I Ma Su

ありがとうございます

これは、合っている。

私は彼の後ろで、何も考えることができず、ただその文字を追っていました。

ITa Da Ki Ma Su

いただきます

これも、合っている。

Go Chi So Sa Ma

ごちさま

彼は違いに気付くと、消しゴムで丁寧に消して、また書き始めました。鉛筆を持つ手にはぐっと力が入っていて、とてもしっかりとした字を書いています。何度も何度も書いたり消したりを繰り返しているのです、ノートはしわしわになっていきます。教室を見回すと、漢字を何度も書いている子どもいれば、もの名前の勉強をしている子どもいます。あまりにもみんなが力強く勉強しているのです、私は何も声を掛けることができませんでした。

午後は、入学したばかりでこれから日本語を学ぶ子どもたちの教室へ行きました。サユリちゃんという子に、ひらがなを教える機会がありました。まずは字の形から、

譲っただけでも、心から丁寧に

「ありがとうございます。」

と言ってくれました。私でも、最近は少し恥ずかしくなってしまう、「ありがとうございます」としっかり言えている機会は少ないことに気付かされました。また、生活している中でも、「ありがとうございます」を省く人も少なからずいるように思います。でも、外国から来た子どもにも大切に教えるのは、「ありがとうございます」という言葉です。私は、これからもっとこの言葉を大事にしないといけないな、と考えています。今回出会ったみんなにも、「ありがとうございます」の気持ちを忘れずに、数多くの優しさと懸命さを生み出してほしいです。今、この感動を与えてくれたみんなに、「ありがとうございます」と伝えたいです。